

事務事業 No./名称	■サービス部門 市民-19 勤労福祉会館管理運営事業 □支援部門						
主管課	産業振興課	関連課					
分野名	勤労者福祉						
目標 (目標値)	勤労者の福祉の増進と文化の向上に活用するための施設の管理運営を行う。						
人口等のデータ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備考		
	人口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯			
事業の対象者数	70,146人	71,099人	71,831人				
運営資源状況	決算値(千円)	65,770	75,299	65,137			
	(国・県)						
	(負担金等)	118	175	169			
	(一般財源)	65,652	75,124	64,968			
	人員配置数	0.1	0.1	0.1			
	人件費(千円)	819	862	862			
	協働のパートナー						
事務事業運営経費	総事業費(千円)	66,589	76,161	65,999			
	市民1人当りの経費(円)	376	430	373			
	対象者1人当りの経費(円)	949	1,071	919			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)
施設利用率	×	目標値	45%	50%	50%	50%	50%
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	41.79%	39.92%	40.9%	39.66%	

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止
勤労福祉会館運営事業	44千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要	指定管理者によりレイ・ウェル鎌倉を運営する。			
勤労福祉会館管理事業	65,726千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要	指定管理者によるレイ・ウェル鎌倉の維持管理と大規模修繕を実施する。			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	利用率の伸びがほとんど見られない状況の中で、施設立地上の不便さをカバーする集客方法を工夫する必要がある。		
課題解決のための取組	指定管理事業での各種講座をサークル化を図るなど利用率向上策を実施した。	取組の結果	□解決 ■未解決
未解決の課題	引き続き利用率の向上させる工夫を行うとともに、全庁的な公共施設再編計画に対応していく必要がある。		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 △	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了	
	➡	②妥当性 △		公共施設再編計画策定までの間、高額な修繕については、会館の基本機能や安全確保に配慮し優先的に実施していくとともに、老朽化に伴う内装の劣化などについては、有料利用との兼ね合いを見ながら優先順序をつけて実施していきます。また、耐震化に要する費用などの算定結果も今後の方針策定に反映させていく必要があります。	C	課長等名
		③有効性 △				産業振興課課長代理
		④公平性 ○				濱本 正行

